2026 年度中学３年 DS 沖縄修学旅行 現地報告　10 月 19 日（月）【１日目】

保護者の皆様

夜分に失礼します。沖縄からの現地報告です。
１日目の様子を報告します。

10 時、モノレール大阪空港駅に集合。
いよいよ修学旅行が始まります。

馬場亮吉先生によるお祈りに続いて、お見送りに来てくださった浅井校長先生からのメッセージです。




お忙しい月曜日の朝にもかかわらず、たくさんの保護者の皆様に、お見送りにきていただきました。
ありがとうございました。

保安検査は、やっぱりちょっとドキドキします。



いよいよ飛行機に乗り込みます。搭乗する飛行機の到着が遅れたため、出発が少しだけ遅れました。



機内で、持参した昼食をいただきます。







昼食の後には、さっそくお菓子を食べている生徒もいました。

予定通りの時間で那覇空港に到着！
那覇は快晴です！日差しも強くちょっと暑いです。







この修学旅行のテーマ、前半は、平和学習です。
まずはじめに、平和記念公園へ。さっそく、クラス写真を撮影しました。





バスガイドさんから、悲惨な沖縄戦のこと、この公園に込められた平和への願いについて教えていただきました。





沖縄戦で亡くなられた方々の名前が刻まれている「平和の礎」の見学。日本人だけでなく敵味方かかわらず沖縄戦によるすべての犠牲者の名前が刻まれています。そこには、民間人の犠牲者も含まれています。





つづいて糸数アブチラガマ入壕体験。写真は入壕前の説明を聞いている様子。



ガマの中は、撮影禁止のため写真はありません。
糸数アブチラガマは、沖縄本島南部にある全長 270 メートルの自然洞窟です。沖縄戦時、この自然洞窟は糸数住民の避難指定場所や、日本軍の地下陣地・倉庫としても使用されました。戦場が南下すると、南風原陸軍病院の分室となり、1945 年 5 月 1 日から軍医・看護婦・ひめゆり学徒が配属され、約 600 名の負傷兵が運び込まれた場所です。その後、南部への撤退命令により、重症患者は置き去りにされ、その後、多数の死者を出しました。8 月 22 日、米軍の投降勧告に従って生き残った少数の住民と負傷者はガマを出ることができました。

実際に使用され、たくさんの方が壕の中で犠牲になったガマの中をご案内していただきました。
真っ暗な壕の中で当時の人たちがどのような体験をされたのか、現地を訪れたからこそ具体的な想像ができました。

入壕体験の後、ホテルへ入りました。
今日から三連泊する沖縄プリンスホテル オーシャンビューぎのわんです。



2022 年開業の新しいホテルです。各部屋のきれいさに生徒たちも大喜びです。

夕食です。豪華なブッフェスタイル。ついつい食べすぎてしまいます。











この後、室長ミーティングを行い、今日の反省、明日の予定を確認し、解散しました。
明日の活動に備えてしっかりお休みします。

また明日、夜になりますが、二日目の報告をお送りする予定です。